

令和3年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立東部特別支援学校PTA
学 校 名	静岡県立東部特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	94名

1. 使用状況

寄贈物品名	小型電動圧縮機
使用学年及び人数	高等部1～3年 17名
使用頻度	6月～7月、9月～11月、1月～2月 ほぼ毎日
使用状況	<p>主に、重度重複クラスの生徒が、校内実習やリサイクル活動の授業で使用している。</p> <p>・校内実習・・・年に2回、校外で行う現場実習にあわせ、1年生や校内に残る生徒を対象に実施。校内で空き缶の回収を呼びかけ、集まった空き缶を圧縮機でつぶし、地域の回収業者に引き渡す。トイレトペーパーと交換してもらい、他学部にも配付する活動を行った。</p> <p>・リサイクル活動・・・生活単元学習でリサイクルについて学習。空き缶やペットボトルを回収し、空き缶は圧縮機でつぶし、ペットボトルはふたを外しラベルをはがす作業を行った。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>空き缶圧縮機は、入り口に空き缶を入れると大きな音がして下からぺちゃんこにつぶれた缶が出てくるという、因果関係の分かりやすい機械である。初めは教員と一緒に繰り返し行うことでやり方が分かり、教員の工夫次第で少しの力で活動に参加できる。重度重複クラスの生徒は、多くの支援がないと活動に参加することが難しく思われがちだが、圧縮機を使うことで、やる事が分かり一人一人の得意な動きを生かし主体的に参加することができている。また、トイレトペーパーに形が変わり他学部にも渡しに行くなど人との関わりも増えた。身体の障害に併せ視覚障害のある生徒も、教員が圧縮機に空き缶を置いて「いいよ」と声を掛けると、右手を内から外に動かして置いてある空き缶を穴に入れ圧縮することができた。決められた時間中取り組むことができた。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>SDGsの観点からも、引き続き活動を継続する予定である。コロナ禍で学校外部の方たちとの関りが難しい面があるが、今後は圧縮した空き缶やペットボトルなどを生徒たちが業者へ持っていき、外部の方たちとの関りが増えていくとさらによいと思う。</p> <p>そのためには圧縮した空き缶をペーパーなどに換えてくれる身近な地域の業者とのつながりを作ることが課題である。</p>
その他希望や所感など	<p>高等部を卒業すると、多くの生徒は地域で生活することになる。この活動が満足感を得たり自信や意欲につながったりすると、高等部で目指す「どこに行っても誰とやっても」自分の得意な動きがだせるのではないかと思う。</p>

2. 活用の様子



やるのが分かり、缶を握り穴に入れようとしています。

繰り返し行くと、スムーズに入れることができるようになりました。



左腕を外側に動かすと、缶が穴に落ちるようガイドを付けています。



右手を上にあげると缶が転がるしかけになっています。



左手を上にあげると缶が転がるしかけになっています。



生徒それぞれの得意な動きを生かしてたくさんの缶をつぶしました！



地域のリサイクル店でトイレットペーパーに換えてもらいました！こんなにたくさん！

